

2022.7.10 年間第15主日

## 隣人と隣人のいのち

ルカによる福音書 10:25-37

ある律法の専門家が立ち上がり、イエスを試そうとして言った。「先生、何をしたら、永遠の命を受け継ぐことができるでしょうか。」イエスが、「律法には何と書いてあるか。あなたはそれをどう読んでいるか」と言われると、彼は答えた。「『心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい、また、隣人を自分のように愛しなさい』とあります。」イエスは言われた。「正しい答えだ。それを実行しなさい。そうすれば命が得られる。」しかし、彼は自分を正当化しようとして、「では、わたしの隣人とはだれですか」と言った。イエスはお答えになった。

「ある人がエルサレムからエリコへ下って行く途中、追いはぎに襲われた。追いはぎはその人の服をはぎ取り、殴りつけ、半殺しにしたまま立ち去った。ある祭司がたまたまその道を下って来たが、その人を見ると、道の向こう側を歩いて行った。同じように、レビ人もその場所にやって来たが、その人を見ると、道の向こう側を歩いて行った。ところが、旅をしていたあるサマリヤ人は、そばに来ると、その人を見て憐れに思い、近寄って傷に油とぶどう酒を注ぎ、包帯をして、自分のろばに乗せ、宿屋に連れて行って介抱した。そして、翌日になると、デナリオン銀貨二枚を取り出し、宿屋の主人に渡して言った。『この人を介抱してください。費用がもっとかかったら、帰りがけに払います。』さて、あなたはこの三人の中で、だれが追いはぎに襲われた人の隣人になったと思うか。」律法の専門家は言った。「その人を助けた人です。」そこで、イエスは言われた。「行って、あなたも同じようにしなさい。」

### 説教

きょうの福音はとてもわかりやすく、よい福音です。

隣人を愛するというとても大切なことが、たとえをとおしてわかりやすく説明されてると思います。

どうしたら永遠の命が獲得できるのでしょうか？ある律法専門家がイエスを試すために質問する、という出だしで始まります。イエスはこの問いに質問を返し、あいてのこたえを賞賛します。しかし、これだけのはなしなら有名な福音となって後世に残ってはいなかったでしょう。続きがあります。

**「では、わたしの隣人とはだれですか」と言った。ルカ 10:29**

この律法専門家の問いに、イエスはたとえ話をはじめます。

登場人物は、おいはぎに半殺しにされた旅人、通りががりの祭司、同じくレビ人、同じく通りががりのサマリア人、宿屋の主人の5人です。祭司は神に仕える偉い人で、レビ人は神殿で下働きする人たちのこと、サマリア人はユダヤ人の軽蔑対象になっていた民族です。同朋のユダヤ人を見捨てた祭司、レビ人に対し、ふだんからバカにされていたサマリア人がよき隣人になったというたとえ話です。

口先だけで律法順守を唱えている祭司・レビ人はダメな人グループで、真の意味で律法・隣人愛を行ったサマリア人はいい人ですねというお話なのです。

**さて、あなたはこの三人の中で、だれが追いはぎに襲われた人の隣人になったと思うか。」律法の専門家は言った。「その人を助けた人です。」そこで、イエスは言われた。「行って、あなたも同じようにしなさい。」ルカ 10:36-37**

この専門家ははたして「同じように」したでしょうか？

福音にはこのはなしの続きがないのでわかりませんが、わたしはこの専門家は同じようにはやらなかったのだろうと想像します。

**安息日は、人のために定められた。人が安息日のためにあるのではない。マルコ**

2:27

あるときイエスはこのように話しました。この安息日を律法に置き換えてみます。

律法は人のために定められた。人が律法のためにあるのではない。

律法の専門家は専門家であるがゆえに律法の縛りからはなれることができなかつただろうな、というのがわたしの想像です。彼にしてみればヒトは律法のために存在していなければ、律法の専門家としての彼の存在意義がなくなります。

人間はただの存在ではなくて「いのち」です。あたりまえですがヒトをモノ扱いしてはいけません。でも往々にしてヒトは「いのち」だということが軽んじられます。

日頃からバカにされているサマリア人は他人の痛みがよくわかる人でした。自分が痛みつけられている分だけヒトの苦しみがよく理解できたのかもしれない。しかしそれだけでなく、それ以上にいのちの尊さがわかっていたのでしょう。だからすぐに助けなければと思い、駆け寄り、その時自分ができる限りのこと、おいはぎにあつて半殺しにされたユダヤ人をお金とともに宿屋の主人に託しました。

サマリア人は用事を済ませて宿屋に立ち寄り、半殺しの旅人は回復に向かい、宿屋の主人からの追加請求はなく（たぶん不足分は宿屋持ち）それではさようならとサマリア人は名前も告げず立ち去った、わたしはこのようなハッピーエンドで締めくくってほしいと思っています。

さいごにさきほどのマルコの福音替え歌できょうの説教のおしまいとします。

律法は人の「いのち」のために定められた。人の「いのち」が律法のためにあるのではない。

---